

# 2022年3月期 決算説明会

2022年6月3日  
中央化学株式会社

(スタンダード:7895)

# 目次

- 1 2022年3月期 連結実績
- 2 2022年3月期 方針
- 3 2022年3月期 振り返り
- 4 2023年3月期 取り組み
- 5 地球環境保全への取り組み

# 1. 2022年3月期 連結実績

---

売上高

**476億円**

営業利益

**7.8億円**

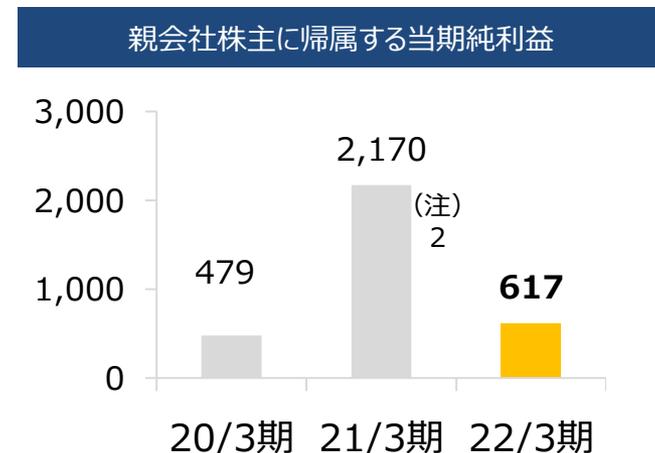
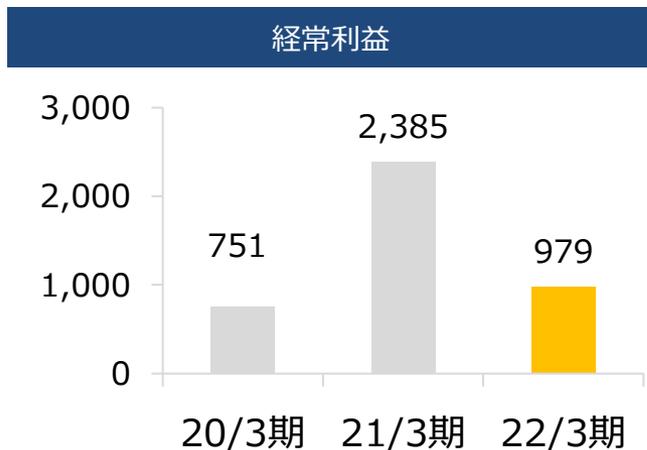
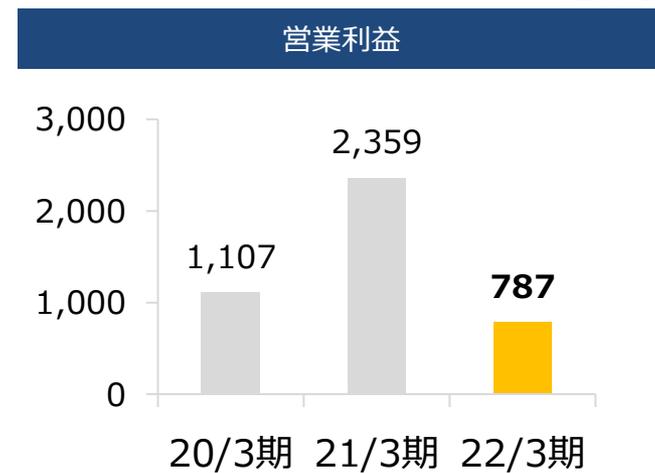
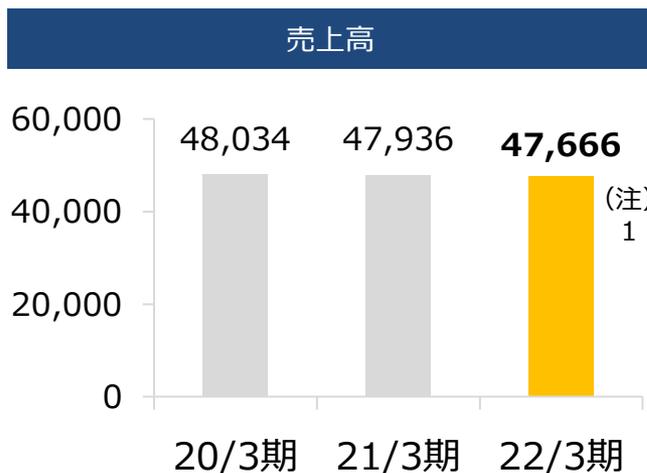
経常利益

**9.7億円**

親会社株主に帰属する  
当期純利益

**6.1億円**

(百万円)



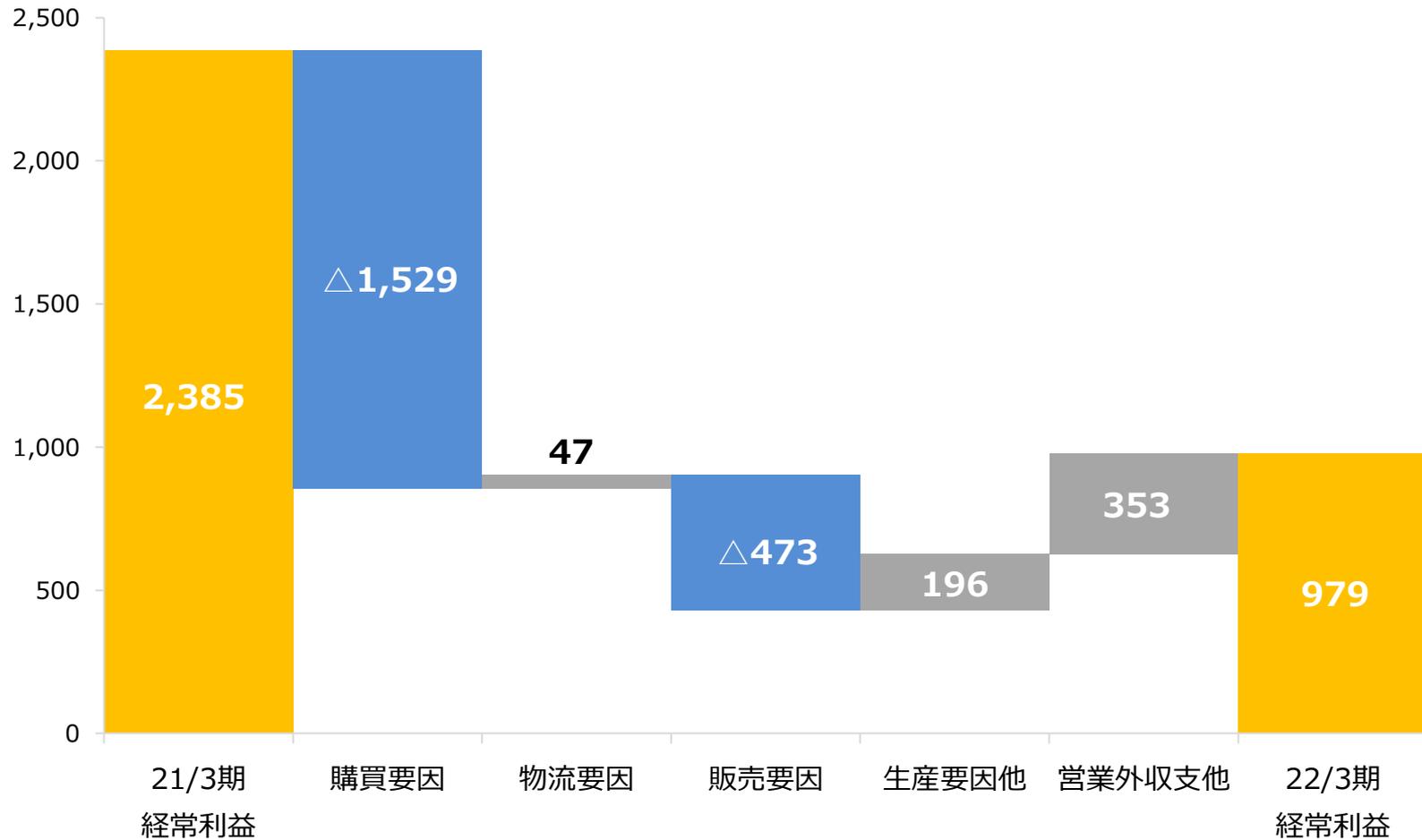
(注) 1 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しております。

(注) 2 2021年3月期において、繰延税金資産回収可能性検討の上、法人税等調整額472百万円（利益）を計上しております。

# 2022年3月期連結経常利益の増減（前年度対比）

1. 2022年3月期 連結実績

（百万円）

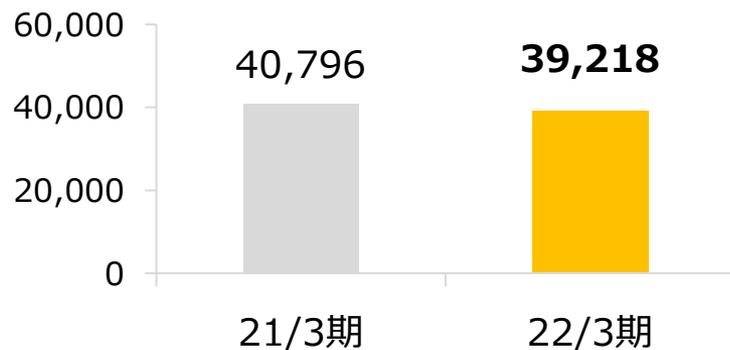


# 報告セグメントの売上高・利益

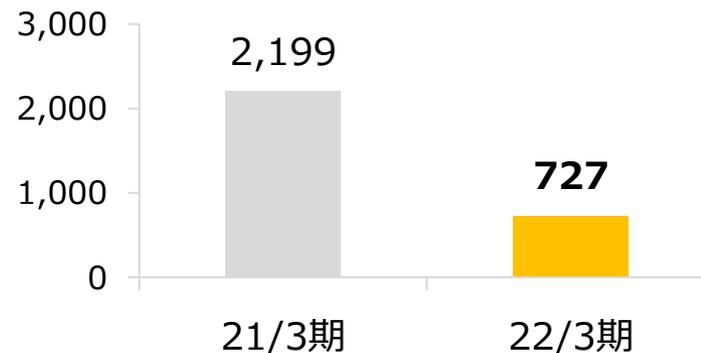
1. 2022年3月期 連結実績

(百万円)

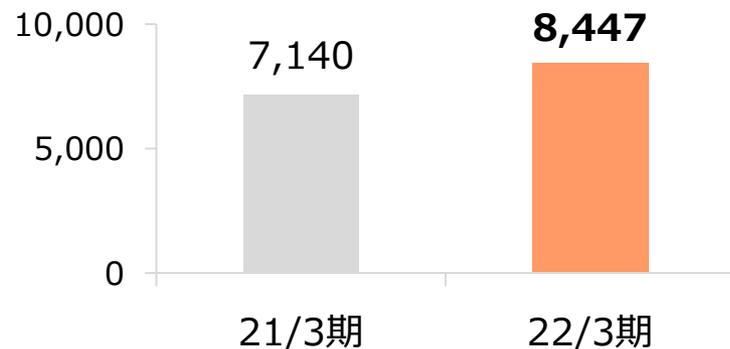
## 日本 売上高



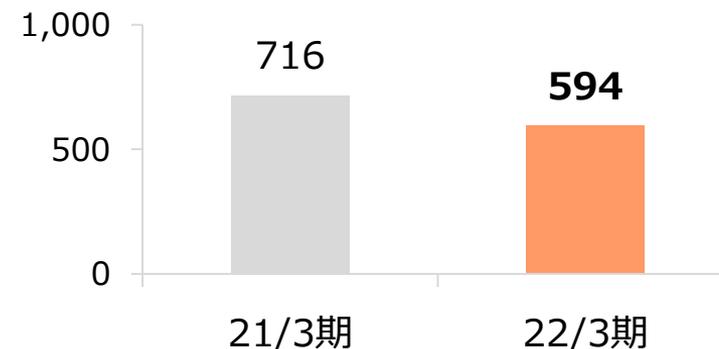
## 日本 セグメント利益



## 中国 売上高



## 中国 セグメント利益



(注) 上記セグメント利益は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用合計（21/3期556百万円、22/3期534百万円）差引前の営業利益になります。

# 連結貸借対照表

1. 2022年3月期 連結実績

	21/3期 期末実績	22/3期 期末実績	(百万円) 増減
流動資産	20,519	21,423	904
現金及び預金	3,584	3,235	△349
受取手形	1,190	1,266	76
売掛金	6,439	6,828	389
棚卸資産	7,066	7,605	539
その他	2,240	2,487	247
固定資産	15,975	15,924	△51
有形固定資産	14,484	14,445	△39
無形固定資産	374	396	22
投資その他の資産	1,116	1,082	△34
資産合計	36,495	37,347	852
負債合計	27,214	26,815	△399
うち有利子負債残高	11,266	10,628	△638
純資産合計	9,280	10,531	1,251
自己資本比率	25.4%	28.2%	2.8%
負債純資産合計	36,495	37,347	852

※百万円未満切り捨て

(百万円)

	21/3期	22/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,103	1,716
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,496	△863
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,972	△1,404
現金及び現金同等物に係る換算差額	103	202
現金及び現金同等物の増減額	738	△349
現金及び現金同等物の期首残高	2,839	3,578
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,578	3,229

※△は減少

## 2. 2022年3月期 方針

---

### 基盤整備ステージ

2019年3月期～2021年3月期

### 飛躍と成長ステージ

2022年3月期～2024年3月期

#### 経営戦略

- 地球環境保全・資源循環を念頭に、新市場・成長市場に取り組む
- 技術の革新を継続し、市場ニーズに応え、世の為、人の為の容器メーカーとなる
- 日本、中国の連携・協業を強め、わが社ならではの価値を生み出す

#### 行動指針

1. 「魂」を込めてやり抜く
  - 目標・計画を必達する「企業魂」
  - 大切に大事に製品を造り上げる「モノ造りの魂」
  - 愛着を持ち、お客様に感謝頂く「製品を愛する魂」
2. 創意工夫をこらし、新市場・成長市場に取り組む
3. 連携・協調・協業を大切にし、内を向くのではなく、新しいチャンスに挑戦する

#### 2022年3月期 全社スローガン

#### 「変革・挑戦・開発」

- 企業活動全般を抜本的に「**変革**」
- 成長市場、新市場の開拓に全社を挙げて「**挑戦**」
- 経営トップから一社員に至るまで全社員が創意工夫をこらして「**開発**」に取り組む

### 3. 2022年3月期 振り返り

---

## (1) 外部環境

- ▶ 新型コロナウイルス感染の影響の長期化
- ▶ 世界的なサプライチェーンの混乱
- ▶ エネルギー・食料等価格の急騰
- ▶ 円安の加速
- ▶ 世界的な環境意識の一段の高まり

## (2) 国内事業

### 新市場・成長市場への取り組み

- ▶環境配慮型素材・製品の開発・拡充
- ▶フードロス削減等機能性を追求した高付加価値製品の拡販
- ▶ライフスタイル、働き方等の変化に伴う新たな需要への取り組み

### リサイクルへの取り組み

- ▶リサイクルPET（C-APG）事業の強化
- ▶店頭回収及びリサイクル（マテリアル、ケミカル）の強化

### オペレーション改革の加速（会社基盤の強化）

- ▶市場開発、研究開発陣容の強化
- ▶人材育成、多様性の尊重、自由闊達な企業風土の醸成

### 原材料価格等コスト高騰への対応

- ▶2021年11月に製品価格改定の方針を発表

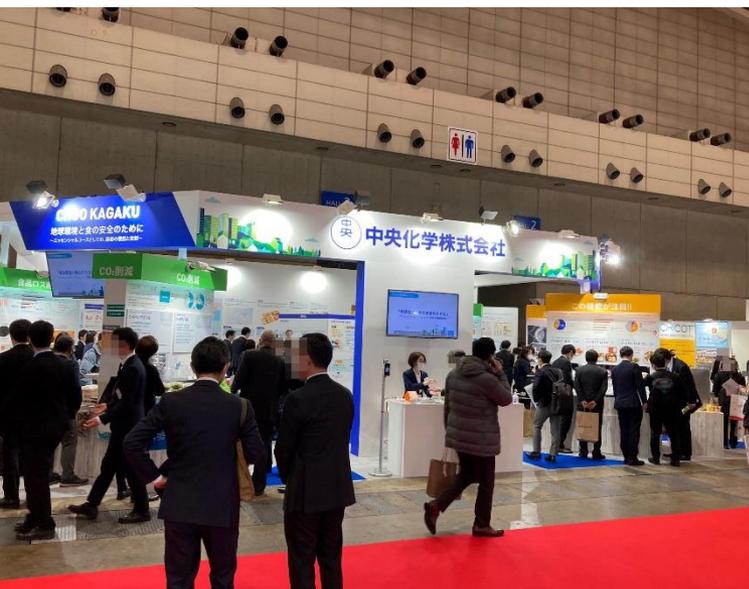
## (3) 中国事業

- ▶ゼロコロナ政策によるロックダウン等企業活動が制約される中、安定操業を継続し、製品供給を履行
  
- ▶環境配慮型素材・製品の開発・拡充
  - ▶▶生分解性素材をベースとする製品開発
  - ▶▶非プラスチック製品の品揃え拡充  
(木製カトラリー、パルプモールド製品、紙製品等)
  
- ▶3生産拠点での生産体制最適化（中国人主導の事業運営＋本社派遣人材のサポート）
  
- ▶中国、日本両事業の連携深堀

## 展示商談会2022



に出展し、展示商談会2022を開催致しました。



### 【展示商談会2022概要】

会期：2022年2月16日(水)  
～18日(金)

会場：幕張メッセ  
SMTS全体の来場者数：  
約43,000人  
(昨年より17,000人増)



多くのお客様に  
ご来場いただきました



## 4. 2023年3月期 取り組み

---

### (1)外部環境

- ▶ウクライナ危機の長期化等地政学リスクは一段と深刻化
- ▶世界的なサプライチェーンの混乱は継続
- ▶エネルギー、食料等価格の騰勢は継続、世界的なインフレに
- ▶新型コロナウイルスについては、感染防止からウィズコロナ・アフターコロナへ
- ▶地球環境保全に向け、CO<sub>2</sub>排出量削減、資源循環への取り組みは加速

### (2) 取り組み方針

- ▶ CO<sub>2</sub>排出量削減、資源循環に資する環境配慮型素材・製品の新規開発・拡販を加速
- ▶ 環境問題であり、社会問題でもある食品ロス削減に貢献するロングライフ容器等機能性製品事業を強化
- ▶ 環境に優しい汎用素材・製品（軽量化・薄肉化）の競争力強化
- ▶ 企業体質の強靱化（全社スローガン「変革・挑戦・開発」）
- ▶ 日本、中国の連携を深堀し、当社ならではの強みを活かす
- ▶ 人材育成、多様性の尊重、自由闊達な企業風土の醸成
- ▶ ステークホルダーの期待に応え、企業価値向上に全力を尽くす

## 5. 地球環境保全への取り組み

---

# 5. 地球環境保全への取り組み

カーボンニュートラル社会の実現に向けて

パリ協定に基づき日本政府は2030年までに46%（2013年度比）の温室効果ガス削減目標を掲げています。当社も政府目標に貢献すべく具体策を策定し取り組んでいます。

リサイクル素材やバイオマス由来原料の活用、製品製造時の省エネルギー化、輸送効率の向上、プラスチック廃棄物の削減などあらゆる施策を駆使してカーボンニュートラル社会実現に向けた取り組みを行います。



▼ 注力する取り組み

▼ 2030年度目標

## 資源循環リサイクル



PET製品のC-APG化

**100%**

## 環境配慮型素材・製品の開発



PSP、OPS、C-APG製品の軽量化

**▲5%**

環境配慮型製品の販売割合増加

**7倍**

## 食品ロス対策



機能性容器の販売数量増加

**8倍**

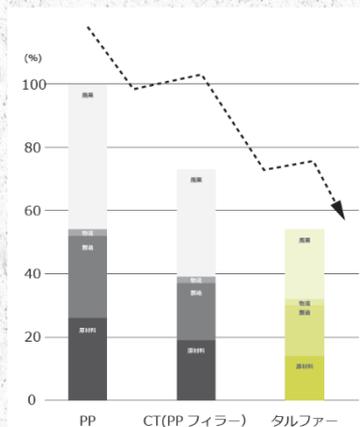
## 環境配慮型素材・製品の開発・拡充



### ①主原料はタルク

天然資源のタルク(滑石)を主原料として使用することで、プラスチックの使用量を半減させています。

### ②CO<sub>2</sub>排出量を約49%削減(当社PP比)



## MAPKA

マブカ



### ①主原料は紙パウダー

紙パウダーを主原料とした環境配慮型素材で、CO<sub>2</sub>排出量を約41%削減することができます。

### ②バイオスマーク

バイオマス素材を50%含有することで、認定を受けています。

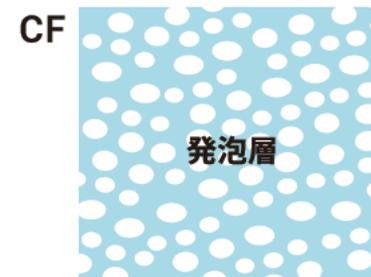


## 環境配慮型素材・製品の開発・拡充

C-APG 

バイオCT・バイオCF

### 軽量化



CO<sub>2</sub>排出量

約 **27%** 削減

C-APGは、使用済みPETボトルのリサイクル原料を使用した環境配慮型素材です。当社従来品（A-PET）と比較してCO<sub>2</sub>排出量を約27%削減することができます。

CO<sub>2</sub>排出量

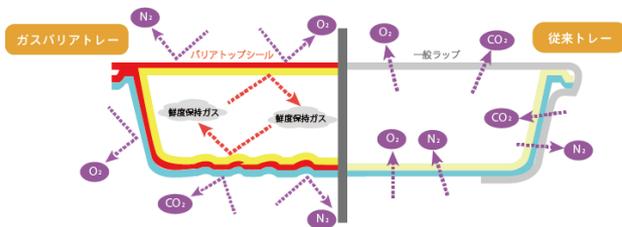
約 **7%** 削減

バイオCT・バイオCFは石油資源の代わりに、持続可能な植物由来の有機性資源（バイオマスプラスチック）を使用した環境配慮型素材です。

独自の発泡素材により軽量化された容器で、石油資源の使用量を減らし、環境負荷低減に貢献します。

## 食品ロス削減

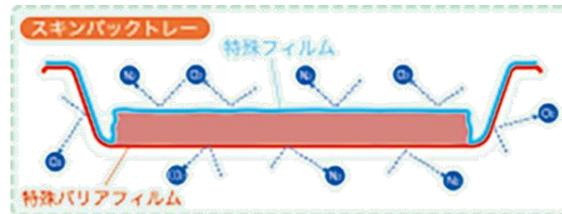
Ever Value  CHUO KAGAKU



Ever Value®は、鮮度保持ガスを容器内に密閉し、食品の酸化・雑菌の繁殖を抑制することにより、鮮度を保持できる当社独自の容器です。

魚や肉、野菜などの消費期限を延ばし、食品ロスの削減に貢献します。

## バリアスキンパック



バリアスキンパックは、特殊バリアフィルムを貼った容器に食材を乗せ、スキンフィルムで圧着することで酸素や窒素を通さない密閉包装をした容器です。

Ever Value®と同じく消費期限延長を可能とし、食品ロスの削減に貢献します。

## 耐寒CT



耐寒CTは、当社素材の130℃の耐熱性のあるCTを使い冷凍も可能にした容器で、冷凍からレンジアップまで幅広い温度帯で使用できます。

## 店頭回収リサイクル



## リサイクル素材の活用 C-APG (リサイクルPET)



全ての食品に安心して使えます。

## 中国での新製品の市場投入について

- ・生分解性素材（タルク+PLA）をベースとする製品開発



- ・非プラスチック製品（パルプモールド、木製カトラリー、紙製品等）の品揃え拡充

パルプモールド容器



紙製容器



木製カトラリー



生分解性レジ袋



本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。